

# 愛媛県の銀行の歴史を調べてみよう！

## 愛媛県に最大 50 の銀行があった

国立銀行が誕生したあと、産業の発展にともない、次々と銀行がつくられて「宇和島銀行」明治 13 年 (1880) をはじめ、「郡中銀行」明治 19 年 (1886)、「松山貯蓄銀行」明治 29 年 (1896)、「大洲商業銀行」明治 29 年 (1896)、「東豫銀行」明治 29 年 (1896)、「愛媛県農工銀行」明治 31 年 (1898) など明治 33 年 (1900) には、愛媛県だけでも 50 の銀行がありました。



今治商業銀行 (明治 29 年)



## ふえた銀行の整理と統合 (1)

世の中の動きが激しくなり、昭和のはじめの法律によって、たくさんありすぎた銀行の数が減らされました。愛媛県でも最大 50 あった銀行が 16 にまでに減ってしまいました。これは産業の発展にともなって、多くの銀行が合併して安心と信頼のある大きな銀行にしようという気持ちになったからです。

そして、南予では豫州銀行 (よしゅうぎんこう)、松山は松山五十二銀行、東予は今治商業銀行にまとまっていきました。でも、まだいろんな形で多くの銀行がありました。



松山五十二銀行本店



## ふえた銀行の整理と統合 (2)

ふえた銀行は南予では豫州銀行にまとまってきました。写真は豫州銀行本店 (現伊予銀行八幡浜支店) のものです。



豫州銀行本店 (現伊予銀行八幡浜支店)

